

森

の通信

宮崎県総合博物館
発行日/平成13年10月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号TEL(0985)24-2071
http://www.pref.miyazaki.jp/museum/ E-mail:museumso@miyazaki-nw.or.jp

十二単じゅうにひとえに代表される宮廷衣裳きょうてい いしやうは、平安時代にほぼその形式が定まったとされています。その後、宮廷衣裳は文様もんようや色彩しきさい、精緻な技巧によって、日本人の四季折々の情感を細やかに表現し、武家の衣裳や現代の「きもの」などに大きな影響を与えてきました。

大正4年に行われた大正天皇即位式では、明治時代以来の洋風化の中で宮廷では服制が整えられ、古式に則った衣裳が作られました。この服制が、平成における即位式そくいしき、大嘗祭たいじやうさい、立太子式りつたいししき、御婚礼に際しての規範となったのです。



大正天皇即位式にて製本宮守正王着用衣冠



大正天皇即位式にて製本宮伊都子妃着用五衣小袿

今回の展覧会では、青梅きもの博物館の協力のもと、大正天皇即位式において皇族が着用された宮廷衣裳を中心に、皇族妃衣裳、現皇太子ご夫妻婚礼の儀衣裳（複製）、水戸徳川家をはじめ

とする大名家の女性・男性衣裳及び
 醍醐伊東家の女薬物（駕籠）などの
 関連資料を展示し、日本の伝統文化としての「きもの」の歴史をたどります。優美な色彩と高貴な文様に囲まれたみやびの世界へ足を踏み入れてください。

なお、参考資料として、美智子皇后が幼少の皇太子のために作られたお手製の衣服などを展示します。



美智子皇后お手製ロンパースとミトン

開館五十周年記念特別展 十二単じゅうにひとえににみやびの世界へ

— 宮廷と大名家の衣裳展 —

平成十三年十月二十日（土）～十一月二十五日（日）

観覧料 大人500(400)円
 高大生300(200)円
 小中生200(100)円

※（ ）内は20名以上の団体
 なお、常設展観覧は別途料金になります。

「猫の金」

博物館に鑑定を頼まれる鉱物の中に俗に「猫の金」とよばれる「砂金」があります。土の中で金色に光る粒は確かに金に見えます。もしかしたら砂金かもしれないと期待しながら持ち込まれます。しかし、この砂金は水に流され、指でつぶれてしまうのでちょっと変です。本物の金なら、重くて水に沈むし、指でつぶれたりしません。実はその正体は「金雲母」という、六角板状の雲母が風化してできたものです。拡大して見れば板状をした粒であることがわかります。粉にすれば、黒っぽい色になります。本物の金ならいくら粉にしても金色に輝くはずです。昔から本物の金を見分けるために黒色緻密な「試金石」にこすりつけ、粉にした時の色によって判定していました。

博物館講座紹介

視覚障害者のための

触察体験考古学講座



目の不自由な方々のための考古学講座は、博物館講座としては初めての試みでした。小学校3年生から60才代の大人までの16名が参加して、粘土に縄文をつけたり、黒曜石の石器で切れ味を試したり、実物の縄文・弥生土器や石器、鉄器に直に触れたり、古代の製作技術を文字どおり体感しました。参加された皆さんは資料を注意深く観察し、私たちが感心するほど講座を熱心に受講されていました。また、県立盲学校の先生方やボランティアの皆さんには解説の補助をしていただきました。有り難うございました。

収蔵資料紹介

ヒゴタイ (キク科)

丘陵地の草原に生える植物で高さは約1mくらいになり、8月下旬から秋にかけて、ルリ色の球形の花を咲かせます。霧島山の山麓に広く分布していたといわれていますが、1970年後半以後その姿を宮崎県では確認できなくなり、本県からは絶滅してしまった植物です。開発や人々が草原を利用しなくなったことで草原が減少したこと、観賞用としての採取がその原因と考えられています。以前はお盆の時に墓にお供えをする花としても使われていました。みなさんのおうちやご近所で宮崎県に自生していたヒゴタイを今でも栽培している方はいませんか？ 情報をお待ちしています。



展示解説員の声

楽しみにしていた夏休み、いかがでしたか。博物館では「わくわく恐竜展」の開催で、毎日たくさんのお子どもたちが、県内各地はもとより県外からも遊びにきてくれました。博物館は、恐竜展のような特別展のほかに、県内の動物、昆虫、植物、岩石、土器、石器、おもちゃ、民具などの資料をいつも展示している常設展示室があります。博物館には何度も足を運んでくれる常設展ファンのお友達がたくさんいます。また、一度も遊びに来たことのないお友達、楽しさいっぱいの博物館にぜひ遊びに来てみてください。私たち展示解説員がお待ちしています。

(平崎みさと)



西都原資料館より

江戸時代の鬼の窟古墳

平成7年度からの発掘・復元によって、造られた当時の姿を取り戻した鬼の窟古墳。江戸時代終わり頃の記録によると、空室塚とも呼ばれ、石室の奥には祭壇がしつらえてあり、入口には注連縄が引かれていたということです。地元の三宅地区の人たちの尊崇を集めていたといえます。発掘された須恵器や古墳の模型が資料館に展示してありますので、是非ご覧ください。



【問い合わせ先：西都原資料館 Tel/Fax 0983-43-1354】

西都原古代生活体験館より

土器作り講座を実施

良事を土器が
できました～



夏休み半日講座

～小枝で生き物や人形を作りました～

*西都古墳まつり(11月3・4日)
古代体験少年団の「無料体験コーナー」で簡単な人形作りができます。(11月4日10:00～15:00)



これからある講座

11月17日(土) 蜻蛉玉作り

2月23日(土)・24日(日)

古代おもしろ講座 ～竪穴式住居をつくろう～

【問い合わせ先：西都原古代生活体験館

Tel 0983-43-5002 Fax 0983-43-5006】

～ご案内～

常設展示室探検 駄菓子屋さん

今年4月から、昭和30年代の暮らしを展示紹介する「時代の広場」に面して、昭和30年代から40年代を想定した駄菓子屋さんを設置しました。店内のガラスケースの中には、ボン菓子、酢こんぶ、糸引き飴などの駄菓子やビー玉、パッチン、おはじきなど昔懐かしいおもちゃを置きました。店番のおばあちゃんはイラストで表現し、壁には怪獣と野球の映画ポスターを貼って懐かしい30年代の雰囲気を出しています。皆さんも、あの古き良き30年代へタイムスリップしてみませんか。



